

No. 46

2005年11月発行

淀川水系 流域委員会 委員会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第46回委員会の内容……………P. 1
- 第46回委員会の説明資料より抜粋……………P. 3
- 配付資料リスト……………P. 7
- 委員会 委員リスト……………P. 8
- これまで開催された会議等について……………P. 9
- 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法・ご意見受付……………P. 10

平成17年9月24日(土)、第46回委員会が行われました。



【みやこめっせにて】

第46回委員会の内容

河川管理者より、審議資料2-1「異常渇水時の緊急水の補給のための容量を琵琶湖で確保することについて」、スライド資料「枚方停泊地設置工事（整備内容シート 利用10 航路維持有効利用方策検討）」を用いて説明がなされた後、委員との意見交換が行われました。

第46回委員会結果報告

庶務作成

開催日時：2005年9月24日（土）14：00～17：30

場 所：みやこめッセ 1階 第2展示場

参加者数：委員23名、河川管理者21名、一般傍聴者223名

1. 決定事項

- ・5ダム方針の調査検討内容に対する意見は、十分な検討を終えた時点でとりまとめを行う。このため、10月の各地域別部会では、引き続き、5ダム方針の調査検討内容について審議する。
- ・最終的な意見とりまとめの時期は、10月の各地域別部会の検討状況によって決定する。

2. 報告の概要

寺田委員長より、その他資料「委員会の今後のスケジュール」を参考にして、5ダム方針の調査検討内容に関する審議の進め方について報告がなされた。

- ・本日の委員会を目標にして、5ダム方針の調査検討内容に対する意見とりまとめを進めてきたが、調査検討内容の範囲が非常に広いうえ、河川管理者から新たな資料を提出して頂いた。このため、委員間で検討をした結果、性急に意見を取りまとめるのではなく、十分な検討を終えた時点で意見とりまとめを行うことになった。
- ・9月中旬の各地域別部会で5ダム方針の調査検討内容に関する詳細な検討を行ったが、積み残しの部分があるため、第55回運営会議（9/20開催）にて、今後のスケジュールについて検討を行った。その結果、引き続き、10月の各地域別部会で5ダム方針の調査検討内容について審議して頂くことになった。また、ダム意見書WGでも並行して検討を進めて頂く。
- ・最終的な意見とりまとめの時期は10月の各地域別部会の検討状況によって決定したい。遅くとも11月末にはとりまとめを行いたいと考えている。

3. 審議の概要

①5ダムの方針および調査検討内容に関する意見交換

各地域別部会長より審議資料1-7「各地域別部会における5ダムについての調査検討に関する検討状況の報告と問題点について」を用いて各地域別部会での検討状況と問題点について報告がなされた。

- ・河川管理者には、調査検討内容に関する質問や資料提供をお願いしてきた。例えば丹生ダムに関しては、ダム代替案のコストのブレークダウンや丹生ダム本体の事業費等について資料提供をお願いしている。河川管理者には、これまでの質問の内容と回答状況を整理して頂きたい。

←現時点で回答できるものについてはお答えしたいし、現時点で回答できないものについては少しお待ち頂きたい。委員からの質問について、逐一、委員会や部会で説明するのは時間的に難しいと思われるので、個別に説明した方がよいのではないかと考えている（河川管理者）。

←河川管理者には、委員の質問や要望を整理して、10月の各地域別部会で説明して頂くよう準備をお願いしたい（委員長）。

②5ダム方針の調査検討内容に関する意見交換

河川管理者より、審議資料2-1「異常渇水時の緊急水の補給のための容量を琵琶湖で確保することについて」、スライド資料「枚方停泊地設置工事（整備内容シート 利用10 航路維持有効利用方策検討）」を用いて説明がなされた後、委員との意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。

○異常渇水対策について

- ・丹生ダムによる琵琶湖水位上昇抑制対策として、洗堰からの事前放流を5cmにしている根拠は何か。
←昨年から現在まで5cm程度高めの水位で全開放流を止めて、なだらかに制限水位に移行する試行を続けている。試験的に操作を行ったことはないが、5cm程度であれば雨が降る前に（24時間程

度で）制限水位まで下げられると考えて試行を続けてきた。しかし、これまでの観測データから24時間で確実に低下できる水位は5cm程度ではないかと考え、事前放流による水位上昇抑制効果を5cmにしている（河川管理者）。

- ・丹生ダムの異常渇水対策容量2000万m3は、治水容量3300万m3に上乗せする容量だ。治水容量3300万m3が満水になってはじめて異常渇水対策容量2000万m3の効果が出てくる。総貯水容量5300万m3が満水になる確率はどの程度なのか。どのような雨を想定しているのか。

←丹生ダムでは、琵琶湖水位上昇を抑制するために全量カットを行う。全量カットによって琵琶湖水位上昇の抑制のための容量2000万m3が満水になった後に、高時川洪水調節容量3300万m3を使って洪水調節を行う。洪水後に放流して3300万m3を確保するが、琵琶湖水位が制限水位よりも高い間は、2000万m3は貯留しておく。琵琶湖水位が低下する前に降雨がきた場合は、高時川洪水調節容量3300万m3を駆使して洪水調節を行う。ちなみに、このような琵琶湖水位が高い状態は、明治29年では現況でも少なくとも1～2カ月ぐらいはかかるだろうと考えている（審議資料1-2-4「今回の方針における丹生ダムの運用イメージ（補足説明）」）（河川管理者）。

- ・審議資料2-1では、既往最大の異常渇水として、昭和14～16年について検討されているが、既往第2位、既往第3位の渇水がいつ発生し、どんな内容だったのかを教えてください。また、平成6年の大渇水が既往第何番目にあたるのかについても教えてください。

○その他

- ・川上ダム計画の基本的な部分に疑問がある。岩倉峡の入り口の水位流量曲線については、これまでの説明では納得できない。ダム計画時にどのような根拠・数値でダムが計画されたのか。いまだに説明がない。

- ・審議資料1-1「淀川水系5ダムについて」では、治水について、「水系全体として、破堤による被害の回避・軽減を図ることを目標としています。ただし、狭窄部の上流については、既往最大規模の洪水に対して浸水被害の軽減を図ることを目標としています」としている。これだけを淀川水系の目標としてよいのか。100年の大計的な視点に立って考えていくべきだ。

- ・枚方地区の船舶停泊地整備の検討が完了し、予算の工面もついたため、具体的な整備をしたい。自然環境に配慮して、できるだけ現状に手を加えずに整備ができる箇所として枚方を選定した（河川管理者）。

- ・各地域別部会には、引き続き、5ダム方針の調査検討内容に対する意見とりまとめのための検討をお願いしたい。10月の部会だけでは検討が不十分な場合は、再度、部会を設定して頂きたい。また、委員は所属部会に限らず、ご出席をお願いしたい（委員長）。

- ・河川管理者には委員の質問や要望を整理して、各地域別部会で説明して頂く準備をお願いしたい（委員長）。

4. 一般傍聴者からの意見聴取 一般傍聴者6名から発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・河川管理者から高山ダムで浅層曝気装置設置後にアオコの異常発生は確認されていないとの説明がなされたが、それは近辺の目視確認だけによるものだ。上流部ではアオコは消えていない。浅層曝気装置を増やしたとしても、一台あたり6000万円の費用と運用コストが必要になる。これは大きな損失だ。

- ・「100年の大計的な視点で考えていくべきだ」という委員の意見は、もう一度最初から治水を議論するように聞こえる。淀川水系のダムの数を考えて、本当に川上ダムが必要なのかどうか、議論をして頂きたい。

←ご批判を頂くのは構わないが、委員の発言を牽制するようなご発言はやめて頂きたい（委員）。

- ・利水を専門としている委員の発言が少ない。一般傍聴者の野村氏から利水に関する意見書がたびたび提出されているが、これらに対する専門家の意見を聴きたい。

- ・ダムを建設するべきという意見は少ない。委員の意見交換会の内容も公開して頂きたい。また、川辺川ダムの新聞記事を委員会に提出する。委員会は20～30年の計画を考え、河川管理者に意見を出してほしい。

- ・審議資料「川上ダム建設に伴う自然環境への影響について」では、自然環境への影響は極力少なくするとしながら、オオサンショウウオを上流へ移転するとしている。なぜ前深瀬川にオオサンショウウオがいるのか、生態学的・歴史的な研究が必要だ。学識経験者のコメントはダムに肯定的な意見が多い。

- ・5ダムの検討をしている時に議論の蒸し返しはやめてほしい。5ダムに関する議論をして頂きたい。

- ・異常渇水対策は、既往最大渇水での断水回避が目的となっている。断水は8～9月に発生する。空梅雨対策として4050万m3を琵琶湖に貯めていても、8月末までに夏期制限水位－30cmまで下げてしまう。このため、琵琶湖周辺の浸水被害については、梅雨期のシミュレーションだけでよい。審議資料2-1では、梅雨期の3つの検討結果はいずれも瀬田川改修と事前放流で7cmを超えている。この問題については、河川管理者に質問書を出したが、まともな回答は頂いていない（一般から寄せられたご意見No. 601）。

第46回委員会の説明資料より抜粋

■審議資料1-7より

第46回委員会では、審議資料1-7「各地域別部会における5ダムについての調査検討に関する検討状況の報告と問題点について」を用いて各地域別部会での検討状況と問題点について報告がなされました。以下に資料を掲載いたします。

琵琶湖部会

中村正久 委員

丹生ダム意見書作成の主要な論点の整理

- 意見の組み立て方、総論
＜意見書に求められているもの＞
 - ・河川整備事業にとどまらず今後長期にわたる淀川水系の流域管理の姿を反映する判断が必要
 - ・「地域住民の意見」や「地方公共団体の長の意見」とは異なった見地からの意見＜河川管理者、地域、委員会の認識が一致している点＞
 - ・「治水」と「地域社会の持続的発展」の重要性
 - ・当初計画の利水容量は不要
 - ・治水、環境、異常渇水時の緊急水の補給について、幅広い十分な検討が必要
 - ・琵琶湖への影響配慮の重要性
- 意見の組み立て方＜各論＞
＜異常渇水時、既往最大渇水における断水回避、緊急水補給、河川維持流量などの概念への疑問＞
 - ・異常渇水時の緊急水補給量4,050万トンの根拠、とくに水需要管理や河川維持水量との関係
 - ・BSL－1.5mを超える渇水時における多様な対策の可能性や政策判断のあり方
＜水位上昇抑制対策の方法と効果に対する疑問＞
 - ・異常渇水が発生して緊急水の補給が必要な時期と、洪水リスクが高まる時期との関係
 - ・瀬田川の改修、事前放流とダムによる水位上昇抑制効果の相対的な効果
＜瀬田洗堰の柔軟な操作の可能性について＞
 - ・瀬田側洗堰の柔軟な操作の可能性と削減できるダム容量の大きさの検討
＜ダムに頼る治水対策の比較優位性の検討について＞
 - ・ダムに頼らざるを得ない判断は十分な説得力を持っているか
 - ・河道対策や流域対応がもたらす長期的、広域的な社会・経済的メリットの検討は十分か
＜環境に与える長期的・潜在的影響の大きさの判断と認識について＞
 - ・（治水）ダムの建設が及ぼす環境への影響を判断する材料は不十分
 - ◆ 長期的かつ潜在的なマイナスの影響に対する考え方が甘いのではないか
＜河川整備事業の枠を超えた流域管理のあり方を反映する検討の必要性について＞

淀川部会

今本博健 委員

第31回淀川部会報告：大戸川ダムおよび天ヶ瀬ダム再開発についての審議状況

- 大戸川ダム
(1) 大戸川ダムの経緯
大戸川ダムは、当初、①淀川・宇治川・大戸川の洪水調節、②大阪府・京都府・大津市の新規利水、を主たる目的として計画されたが、新規利水が全量撤退の見込みとなったためか、基礎案では、①淀川・宇治川・大戸川の洪水調節、②保津峡上流亀岡地区の浸水被害の軽減、③琵琶湖の水位低下抑制に効果があるとされており、ダムの目的そのものが変更された。
流域委員会は、基礎案に示された効果の①については、大戸川の洪水調節については一定の効果が認められるものの、宇治川・淀川については限定的な効果しかない、②については、日吉ダムの利水容量を大戸川ダムに振替えることは、桂川の河川環境に悪影響を及ぼす恐れがあるうえに、利水振替の同等性にも疑問がある、③については、瀬田川洗堰の操作がもたらすものであるから、その改善がまず必要ではないか、との意見を示した。その後、河川管理者は②の保津峡上流亀岡地区の浸水被害の軽減については効果が小さいため採用しないとした。
今回発表された方針では、保津峡・岩倉峡を開削するまでは、大戸川ダムの宇治川・淀川の洪水調節効果は小さく、大戸川の洪水調節という治水単独目的では治水分の事業費が増加し、経済的に不利になるとして、「当面実施せず」とした。なお、同方針では、基礎案で効果があるとしていた琵琶湖の水位低下抑制についてはなんの言及もしていない。
(2) 今後の課題
1) 大戸川の治水
河川管理者が大戸川ダムの代替案としてこれまでに示したのは、①河道改修案(河道拡幅・河床掘削)、②遊水地案、③建物耐水化案、という項目のみであり、代替案を真剣に検討したとは認められない。
この度の淀川部会でも、将来大戸川ダムが建設されるようになったときに手戻りにならない、瀬田川への合流流量を現在よりも増加させない、といった方針が口頭説明されただけで、すべては滋賀県との調整にかかっているとして、誠意ある回答をしていない。
流域委員会は、大戸川ダムの代替案として、堤防補強・河道拡幅・河床掘削・河道内障害物の除去といった河川対応と、洪水氾濫想定区域内の一般道路や農道などの2線堤化・土地利用の規制誘導などの流域対応の併用を提案しているが、今後さらに検討したい。
2) 地域社会の修復
ダムによる水没予定地から移転を余儀なくされた住民への対応、地域の活性化への貢献として始められた付替県道・市道などの地域整備事業をどのように継続していくか、河川管理者に誠意ある対応が望まれる。
- 天ヶ瀬ダム再開発
(1) 天ヶ瀬ダム再開発の経緯
天ヶ瀬ダム再開発は、当初から、①淀川・宇治川の洪水調節および琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減、②京都府の新規利水、を主たる目的としており、今回の方針では、これらに③発電を加えた3つを目的として「実施する」としている。
天ヶ瀬ダム再開発はそれぞれの目的に対して確かに効果があるが、これらは名目上の目的であって、琵琶湖からの放流量を増加させることに最も大きな意義があると流域委員会は理解している。すなわち、天ヶ瀬ダム再開発は、琵琶湖からの放流量を増加させるため、瀬田川洗堰の放流能力の増大、鹿跳溪谷の流下能力の増大、天ヶ瀬ダムの放流能力の増大、宇治川塔の島地区の流下能力の増大という一連の事業の一角であり、最も大きな効果が及ぶのは、琵琶湖の治水であり、利水であり、環境である。河川管理者はこれらの効果をなぜ前面に持ち出さないのか、理解に苦しむ。
(2) 天ヶ瀬ダム再開発の検討事項
1) 治水
・放流能力の増大量

- ・瀬田川の堤防補強
 - ・放流能力の増大方法
 - ・瀬田川洗堰の放流能力の増大方法
 - ・鹿跳溪谷の流下能力の増大方法
 - ・宇治川塔の島地区の流下能力の増大方法
 - ・宇治川下流の堤防補強
 - ・その他
- 2) 利水
- ・京都府の新規利水の必要性
 - ・水需要管理との関連
 - ・その他
- 3) 環境
- ・歴史的景観の保全(鹿跳溪谷)
 - ・新たな景観の創出(塔の島)
 - ・生態系への影響(宇治川・ダム湖)
 - ・低周波騒音
 - ・その他

以上

木津川上流部会

川上聰 委員

第3回木津川上流部会 意見交換会

「川上ダムについての調査検討」に関する部会の検討状況と問題点整理について中間報告

(1) 治水

①対象洪水の考え方について

既往最大規模洪水と既往最大実績洪水についての検討

→ 既往最大規模洪水によるダムの必要性への疑問

②岩倉峡狭窄部の流下能力の検証について

実測流量観測値がない範囲での流量推定方法についての検討

→ 流量決定方法の幾つかの疑問点

(2) 川上ダムの三重県の利水について

三重県利水についての代替取水についての検討

→ 0.304m³/s でバランスが崩れることへの疑問、水利権の調整・転用への積極的取り組みの必要性

(3) 川上ダム建設に伴う自然環境への影響について

①オオサンショウウオへの影響

ダム提体下流域および前深瀬川・川上川の湛水予定区域の上流域において、引き続き繁殖活動は継続されとの調査結果に対する検討

→ 調査に有効な固体・固体群数、DNA の問題

②オオタカへの影響

ダム建設関連の使用予定区域とオオタカのつがいの行動圏の距離についての検討

→ 行動圏、営巣場所の変化に対する取り付け道路との距離の考え方、繁殖期の工事対応

③高山ダムでの浅層曝気について

浅層曝気によるアオコ対策効果についての検討

→ 鉛直一次解析モデルの妥当性の検証、浅層曝気による深層への影響

猪名川部会

池淵周一 委員

猪名川部会報告

余野川ダムに関連して以下のような事項について検討

1. 「当面実施せず」当面とは

→現時点では河川整備計画にはのせない

2. 銀橋上流の浸水被害軽減策を検討するときの対象洪水について

当初既往最大洪水(s. 35. 8)でも検討したが、有効な対策(一庫ダムの利水容量を余野川ダムへ振替える案も含めて)を組み合わせても大幅な被害軽減がはかれず、また降雨の正規確率、地域的偏りなど特異な雨であることなどから対象洪水を既往第2位のs. 58. 9 洪水および総合治水対策目標洪水で検討。猪名川部会も既往最大洪水を目標とするのは大きすぎるとの意見。

- ・特異な雨であることの定量的な記述を
- ・銀橋上流の浸水被害軽減を優先する
- ・河川整備計画の期間にできることをする
- ・長期的な目標は既往最大

→河川整備計画の中で猪名川流域にあって優先して取り組むべきことは銀橋上流の浸水被害軽減であり、その対象は既往第2位。もちろん長期的な計画では既往最大に対応していくべきであり、既往第2 位はステップの1つ。

3. 銀橋狭窄部開削による猪名川下流部への影響と対応策

s. 58. 9 洪水、総合治水対策目標洪水に加え、目標洪水を越える洪水についても検討。

具体的にはあらゆる洪水(既往洪水の倍率)を流して開削前後の水位差を見出し、河道掘削案と余野川ダム案による水位低減効果を提示。その際、開削前の水位を下回るような形で対策案を検討。比較評価の上、余野川ダムは当面実施せず。

・計算の前提条件や水位低減効果などについて補足説明を

→あらゆる洪水に対して壊滅的な被害を出さないことが流域全体の最終的な目標であるが、猪名川の河川整備計画にあっては銀橋上流の浸水被害軽減を優先する事から当面は狭窄部上流については既往最大規模洪水(ここではs. 58. 9 洪水および総合治水対策目標洪水)を目標。その対応策として狭窄部開削を行うが、それに伴う下流域水位上昇に対してはあらゆる洪水で検討し、開削前の水位を下回るような水位低減策を取り上げ、その比較評価から河道掘削案を検討。

4. 堤防強化

現堤防の点検評価、無堤防・緊急堤防補強区間の整備、浸透・浸食破堤防止策の導入、越水による破堤しにくい堤防強化については鋭意検討。

5. 堤防強化、河道掘削、狭窄部開削のタイムスケジュール

緊急堤防補強区間を含め直轄区間の整備完了には約10 年。猪名川下流の河道掘削、狭窄部開削の完了までのスケジュールは現時点では未定。いずれにしても整備計画内には完了見込み。

6. 河道掘削、余野川ダムの効果発現時期

銀橋上流対策としての一庫ダム・余野川ダムによる対策案と銀橋開削・猪名川下流の河道整備による対策案を比較検討した結果、コスト面からは後者が有利。いずれも整備期間内に完了見込みであるがその効果発現時期の詳細については今後とも関係者との調整で確定させていく。

7. 河道掘削と環境

- ・干陸化した中州等において平常時の水位との差を小さくし、冠水頻度を高める掘削がメインになっているが、こうした中州掘削だけでよいか。
- ・治水と環境との折合いは
- ・河川敷における運動公園との競合、運動公園は縮小の方向で
- ・低水路と高水敷の移行帯の整備は慎重に
- ・下流神崎川との整合を

などの検討事項

8. 余野川ダムを当面実施せずとしたときの課題、対応策は

- ・関連事業者、地元との調整、事後対応
- ・余野川の治水など

配付資料リスト

資料リスト		資料請求 No
議事次第		R46-A
報告資料1	前回委員会（2005. 8. 24）以後の会議等の開催経過について	R46-B
報告資料2	淀川本川追加視察について	R46-C
報告資料3	「淀川水系5ダムについての方針」に対する見解	R46-D
審議資料1-1	淀川水系5ダムについて（調査検討のとりまとめ）※河川管理者提供資料	R46-E
○審議資料1-2-1	丹生ダムの調査検討（とりまとめ）（9月24日版）※河川管理者提供資料	R46-F
審議資料1-2-2	丹生ダム建設に伴う自然環境への影響について（7月21日A4版）※河川管理者提供資料	R46-G
審議資料1-2-3	「琵琶湖水位操作についての意見書 中間とりまとめ（2005年1月22日）」に関する検討（8月24日版）※河川管理者提供資料	R46-H
審議資料1-2-4	今回の方針における丹生ダムの運用イメージ（補足説明）（8月24日版）※河川管理者提供資料	R46-I
審議資料1-2-5	高時川における治水対策の効果※河川管理者提供資料	R46-J
審議資料1-2-6	琵琶湖の水位上昇抑制効果（9月14日版）※河川管理者提供資料	R46-K
審議資料1-2-7	姉川・高時川の治水対策（これまでの説明内容）（9月14日版）※河川管理者提供資料	R46-L
審議資料1-3	大戸川ダムの調査検討（とりまとめ）※河川管理者提供資料	R46-M
審議資料1-4-1	天ヶ瀬ダム再開発の調査検討（とりまとめ）※河川管理者提供資料	R46-N
審議資料1-4-2	塔の島地区の河道整備について・宇治川下流の治水対策について（8月24日版）※河川管理者提供資料	R46-O
審議資料1-4-3	天ヶ瀬ダム再開発について～放流能力の増大方策～（9月13日版）※河川管理者提供資料	R46-P
審議資料1-5-1	川上ダムの調査検討（とりまとめ）※河川管理者提供資料	R46-Q
審議資料1-5-2	川上ダム建設に伴う自然環境への影響について（7月21日A4版）※河川管理者提供資料	R46-R
審議資料1-5-3	岩倉峡部分開削効果の検討※河川管理者提供資料	R46-S
審議資料1-5-4	木津川上流上野地区の治水対策概算額および概要図※河川管理者提供資料	R46-T
審議資料1-5-5	第43回淀川水系流域委員会（H17. 7. 25開催）における委員からの質問に対する資料（8月5日版）※河川管理者提供資料	R46-U
審議資料1-5-6	川上ダムの三重県利水について（8月24日版）※河川管理者提供資料	R46-V
審議資料1-5-7	川上ダムについて（補足説明）（8月24日版）※河川管理者提供資料	R46-W
審議資料1-5-8	第43回淀川水系流域委員会（H17. 7. 25開催）における委員からの質問に対する資料（8月24日版）※河川管理者提供資料	R46-X
審議資料1-5-9	第43回委員会（2005. 08. 05開催）時に公開された資料の解析結果	R46-Y
審議資料1-5-10	川上ダム建設に伴う自然環境への影響について 補足説明（9月12日版）※河川管理者提供資料	R46-Z
審議資料1-5-11	流域平均雨量計算に使用した雨量観測所について（9月12日版）※河川管理者提供資料	R46-AA
審議資料1-6	余野川ダムの調査検討（とりまとめ）※河川管理者提供資料	R46-AB
審議資料1-7	各地域別部会における5ダムについての調査検討に関する検討状況の報告と問題点整理について	R46-AC
○審議資料2-1	異常渇水時の緊急水の補給のための容量を琵琶湖で確保することについて（9月24日版）※河川管理者提供資料	R46-AD
○審議資料2-2	丹生ダムによる貯留効果検討対象洪水におけるハイエトグラフ及び降水量分布図（9月24日版）※河川管理者提供資料	R46-AE
その他資料	委員会の今後のスケジュール	R46-AF
参考資料1	委員および一般からのご意見	R46-AG

注：○：新たに河川管理者から提供（または修正）のあった資料

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP. 10の「配付資料及び意見書の閲覧・入手方法」をご覧ください。

委員会 委員リスト

2005. 9. 22現在（五十音順、敬称略）

No.	氏名	対象分野	所 属 等
1	綾 史郎	洪水、高潮・津波	大阪工業大学 教授
2	池淵 周一	水資源・水循環	京都大学防災研究所 教授
3	今本 博健	洪水	京都大学 名誉教授 水工技術研究会 会長
4	江頭 進治	河道形状・土砂移動	立命館大学理工学部 教授
5	岡田 憲夫	事業評価	京都大学防災研究所 教授
6	荻野 芳彦	農業関係	大阪府立大学 名誉教授
7	嘉田 由紀子	地域・まちづくり	京都精華大学 教授 滋賀県立琵琶湖博物館 研究顧問
8	角野 康郎	植物	神戸大学理学部 教授
9	金盛 弥	洪水	元大阪府副知事
10	川上 聰	住民連携	NPO法人 全国水環境交流会 理事 木津川源流研究所 所長
11	川崎 雅史	景観	京都大学大学院工学研究科 助教授
12	澤井 健二	河川敷・水面利用	摂南大学工学部 教授
13	高田 直俊	洪水、河道形状・土砂移動	大阪市立大学 名誉教授 社団法人 大阪自然環境保全協会 会長
14	田中 真澄	住民連携	岩屋山志明院 住職 鴨川の自然をはぐくむ会 代表 NPO法人 市民環境研究所 副代表
15	千代延 明憲	住民連携	流域住民
16	寺川 庄蔵	住民連携	びわ湖自然環境ネットワーク 代表
17	寺田 武彦	法律	弁護士（元日弁連公害対策委員会委員長） 龍谷大学法学部 教授
18	寺西 俊一	経済	一橋大学大学院経済学研究科 教授
19	戸田 直弘	漁業関係	滋賀県漁業共同組合連合青年会 理事
20	中村 正久	水環境	滋賀大学 環境総合研究センター 教授
21	西野 麻知子	動物	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター 総括研究員
22	本多 孝	住民連携	IPNET-Jインタープリテーションネットワーク・ジャパン 事務局長
23	水山 高久	治山・砂防	京都大学大学院農学研究科 教授
24	三田村 緒佐武	生態系、住民連携	滋賀県立大学環境科学部 教授
25	村上 興正	生態系、動物、景観	同志社大学 嘱託講師
26	村上 哲生	水質	名古屋女子大学 教授
27	安田 喜憲	水文化	国際日本文化研究センター 教授
28	谷内 茂雄	生態系	総合地球環境学研究所研究部 助教授

これまで開催された会議等について

委 員 会		琵琶湖部会		淀川部会		猪名川部会	
第1回 ～第6回	平成13年開催	第1回 ～第8回	平成13年開催	第1回 ～第10回	平成13年開催	第1回 ～第6回	平成13年開催
第7回 ～第15回	平成14年開催	第9回 ～第20回	平成14年開催	第11回 ～第20回	平成14年開催	第7回 ～第17回	平成14年開催
第16回 ～第27回	平成15年開催	第21回 ～第27回	平成15年開催	第21回 ～第23回	平成15年開催	第18回 ～第20回	平成15年開催
第28回	H16/2/26（木）	第28回	H16/10/13（水）	第24回	H16/8/25（水）	第21回	H16/9/1（水）
第29回	H16/5/8（土）	第29回	H16/11/8（月）	第25回	H16/9/17（金）	第22回	H16/10/21（木）
第30回	H16/6/22（火）	第30回	H16/12/15（水）	第26回	H16/10/19（火）	第23回	H16/11/2（火）
第31回	H16/7/29（木）	第31回	H17/1/8（土）	第27回	H16/11/30（火）	第24回	H16/12/3（金）
第32回	H16/8/24（火）	第32回	H17/4/13（水）	第28回	H16/12/18（土）	第25回	H16/12/23（木）
第33回	H16/9/29（水）	第33回	H17/8/17（水）	第29回	H17/4/11（月）	第26回	H17/4/14（木）
第34回	H16/10/25（月）	第34回	H17/9/14（水）	第30回	H17/8/22（月）	第27回	H17/8/18（木）
第35回	H16/11/16（火）	木津川上流部会		第31回	H17/9/13（火）	第28回	H17/9/11（日）
第36回	H16/12/20（月）	第1回	H17/4/20（水）	ダムWG		3ダムサブWG	
第37回	H17/1/11（火）	第2回	H17/8/20（土）	第1回	H16/7/11（日）	第1回	H16/8/7（土）
第38回	H17/1/22（土）	環境・利用部会		第2回	H16/7/18（日）	第2回	H16/9/11（土）
第39回	H17/2/5（土）	第1回 ～第7回	平成15年開催	第3回	H16/7/25（日）	第3回	H16/11/8（月）
第40回	H17/3/14（月）	治水部会		第4回	H16/8/19（木）	川上ダムサブWG	
第41回	H17/5/17（火）	第1回 ～第6回	平成15年開催	第5回	H16/9/23（木）	第1回	H16/8/3（火）
第42回	H17/7/21（木）	利水・水需要管理部会 （旧利水部会）		第6回	H16/10/4（月）	第2回	H16/9/3（金）
第43回	H17/7/25（月）	第1回 ～第5回	平成15年開催	第7回	H16/10/18（月）	余野川ダムサブWG	
第44回	H17/8/5（金）	第6回	H17/4/24（日）	第8回	H16/11/10（水）	第1回	H16/8/11（水）
第45回	H17/8/24（水）	住民参加部会		第9回	H16/12/1（水）	第2回	H16/9/22（水）
その他	設立会、発足会 第1回 合同懇談会	第1回 ～第7回	平成15年開催	第10回	H16/12/5（日）	水位操作WG	
	第1回合同勉強会 シンポジウム 拡大委員会 提言説明会	第8回	H17/4/24（日）	第1回		第1回	
	しっかりしてや!!流域委員会 ファシリテーターとの検討会			丹生ダム意見交換会		H16/9/27（月）	
	大戸川、天瀬ダム意見交換			住民の意見を聞く会		H16/12/5（日）	
				住民と委員との意見交換会（丹生ダム）		H17/8/17（水）	
				住民と委員との意見交換会（余野川ダム）		H17/8/18（木）	

配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。

- ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
- ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

郵 送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。（希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。）ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

閲 覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。

※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。

ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。

ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、下記までお寄せ下さい。

※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。

※ご意見を公表する場合には、団体・会社名（または居住地）とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。

※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務
みずほ情報総研（株）



淀川水系流域委員会 委員会ニュース No.46

2005年11月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社

.....
研究員：吉岡、篠田、鈴木、熊谷、松本
事務担当：山根

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-2-1（大阪富士ビル8階）

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E - mail : yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統合管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源機構 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川計画室／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木局河川計画課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。